

平成22年度幼稚園教育課程講座研究報告書

部会名	C-3②	研究対象の年齢	なし	受講番号	C3209
テーマ	幼稚園における学校評価				

I 研究のねらい

園の保育資質を高め、子どもの育ちを支援するために行い、その結果を基に課題をみつけ、具体的な実践内容を検討していく。

II 研究内容

1、自己評価

(1) 評価項目の設定

園の実情（教育方針、教育課程を含む）に合ったものを「私立幼稚園の自己評価と解説（フレール館）」を参考にしながら選ぶ。

①教育課程・指導（6項目）②健康と安全への配慮（3項目）③幼児のみとりと理解・対応（5項目）④教師としての資質・能力・良識・適正（9項目）⑤保護者への対応（5項目）⑥地域の自然や社会との関わり（3項目）⑦特別支援教育（3項目）⑧研修（4項目）の38項目で現況をA：十分達成されているからD：達成されていないの4段階で評価し、具体的な理由、内容を自由に記入できるようにした。総合的な評価結果もA～Dで記入し、理由と今後取り組むべき課題及び次年度の目標や計画を自由に記入するようにした。

(2) 実施及び注意点

平成21年12月末に配布し、冬休み中に記入。3学期初めに提出してもらった。（パートを含む教員28名、園長除く）その際、評価が個人の能力に対する査定的なものではなく、保育者としての資質を高めるために日々の保育を具体的に振り返り、課題をみつけていくことが目的であり、その課題を園全体の課題として共通理解し、取り組んでいきたいことを説明した。

(3) 集計

①～⑧の項目毎にA～Dの回答数を折れ線グラフにした。各項目の具体的な理由、内容を参考意見として抜粋して記載。パートの先生からの意見や、全体の反省、課題についても同様に記載したものを2月に配布した。（教員）

(4) 結果及び課題

- ①教育課程・指導についての評価が低く、教育要領をさらに学び、それを具体化することと、前年度踏襲で計画もマンネリ化しているという課題が見つかった。
- ②健康と安全への配慮では、緊急事態発生時の対応に不安が強く、日頃の危機管理への意識、訓練の必要性を感じた。
- ④教師の資質・能力・良識・適正・及び研修では、オープンコミュニケーションという点で課題を抱えている傾向があり、話し合いの質を高めていく必要性を感じた。
- ⑥地域の自然や社会との関わりでは、小学校との連携について、年長担任以外も日々の保育が今後の育ちにどうつながるのかという意識をもつべきという課題が見つかった。
- ⑦特別支援教育では、計画という点でさらに明確化していく必要も感じた。
- ⑧研修については意欲はあるものの、実際の取り組みとのギャップも感じ、さらに一人一人が自己の課題に気づき、それに真摯に取り組む積極性をどう育てていくかが課題である。

(5) 課題についての実践

- ①「製作活動」「身体表現」「プール遊び」で各年次の年間指導計画を立て、子どもの姿に合ったねらいと内容を共通理解し、それと教育課程を基に、月案をたてていくようにした。各学期毎に反省をし、次に活かすと共に、年少から年長までの保育が流れをもって行えるようにしていく。
- ②緊急事態への対応については、教員間でアンケートをとり、具体的な課題をみつけていくようにした。緊急安全装置の取り扱いを確認し、保育者間で不審者侵入のシュミレーションを行い、危機意識を高め、役割分担や今後の課題などについて話し合い、共通理解をしてみた。5月27日の緊急情報共有化訓練でも昨年より具体的な内容で行い、反省をして、課題をみつけていく。
- ①④⑥⑦⑧についてはまだ模索中だが、それぞれのテーマの研修に参加する中でヒントを得て、具体的な実践に結びつけると共に全職員の意識を高めていきたい。

## 2、保護者アンケート

### (1)項目の設定及び実施

平成22年1月13日「幼稚園評価に関わるアンケート」を全家庭（436）に配布し、2月5日までに回答してもらった。平成21年度、東海北陸地区私立幼稚園教育研究福井大会の第12分科会に参加し、福井県の私立保育園協会が作成された内容を参考にして、項目を決めた。（全15項目）質問1～14は、思うから思わないまで5段階に○をつけてもらい、質問15は、幼稚園に入って子どもにとってよかった点、成長した点を自由に記入してもらった。

### (2)結果及び報告

約95%の回答があった。（416/436提出）園の教育理念や方法等については理解が高く、70%以上の方が思うと回答されていた。評価の低い項目は、①小学校との交流②安全対策③インターネットの活用だった。①については、具体的な交流内容を記し、今後も知らせていく必要性を示した。また、内容等については、自己評価結果とも合わせ、今後共学び、検討していく必要性も感じた。②については、園をオープンにしつつ、具体的な安全対策を課題として取り組んでいく姿勢を示した。③については、逆に現状のままでいいとの意見も多く、インターネット以外での情報も、引き続き大切にしていきたいことを伝えた。結果は円グラフでまとめ、印刷したものを3月に配布した。（全家庭・教員）

## 3、学校関係者評価

### (1)構成員の選出

園長主導で評議員（理事6名含む13名）監事を選出。理事の中には地区総代、大学の講師もいる。その他の評議員は学校評価のために新たに選出。本園教諭、在園児保護者、卒園生、地域住民の方等に頼んだ。

### (2)項目の設定及び実施

「私立幼稚園の自己評価と解説」を参考にして、Ⅰ.教育内容 Ⅱ.地域の幼児教育センターとしての役割 Ⅲ.安全管理 Ⅳ.人事管理 Ⅴ.財務管理 についての計67項目を設定し、自己評価同様A～Dで評価。平成22年3月27日に実施した。

### (3)結果及び考察

9名/15名提出。回答率も56%と低かった。Ⅰ～Ⅳまでは60%以上の回答があるが、Ⅴ.財務管理については30%と低く、しかも、C・Dへの評価だった。園の実情をよくわからない人も多く、無回答もしくは、回答を委ねる傾向もあり、有効な結果は得られなかった。項目も多く、さらに内容をしぼりこんで行う必要も感じた。評議員の選出についても今後検討していく必要があるが、さらに理解を求めていくために、公開保育や行事等への参加や、今回行った他の評価も含め、情報を積極的に伝えていき、説明責任を果たしていくことが大切だと思った。また地域住民とのつながりという点ではまだ課題があり、内容を検討していきたい。

## Ⅲ 結論

今回は保護者アンケートを学校関係者評価のひとつとして位置づけ行った。一方評議員の評価では、選出、アプローチの仕方などで課題もみえ、今後十分検討していきながら、保護者アンケートと並行して、行っていきたい。小学校や療育機関との連携は以前から積極的に行っているという認識があったが、保護者アンケートや自己評価からも、その具体的な内容には課題があり、さらに努力していく必要がある。保護者アンケート、自己評価共に今回の結果を元に努力、改善していった点を中心に項目を立て、PDCAサイクルを丁寧に行っていききたい。自己評価で課題にあがった項目の中にはまだ結果が出るまで時間のかかるものも多く、流動的にその過程を評価しながら取り組んでいきたい。教員の自己評価をしたことで、漠然としていた保育観や課題が明らかになり、その課題を共有化していくことで園全体として保育を見直すいいきっかけになり、課題もみつかった。それを具体的にどう実践していくかがこれから重要で難しいと感じている。課題への意識も教員間で温度差もあるように思う。行事や月案を検討する話し合いでは、前年踏襲ではなく新しい意見を取り入れていく努力をしている最中で、意見を言い合うことにはまだ慣れず、時間ばかり費やしてしまっているが、意見を記すことはできるようになってきているので、さらに活発な意見交換ができるよう意識を高めていきたい。また、こうして試行錯誤しながら課題に取り組むその過程を大切にしていくことが、教員の資質や能力を高めることにもつながっていくのだろう。まだ勉強不足なところもあり、他園他市の取り組みも聞かせて頂き、学校評価がよりよい保育実践につながるよう学んでいきたい。